

毎日をもっとプレミアムに!!

DNA 1910

on Magazine

VOL.006
2013 Spring

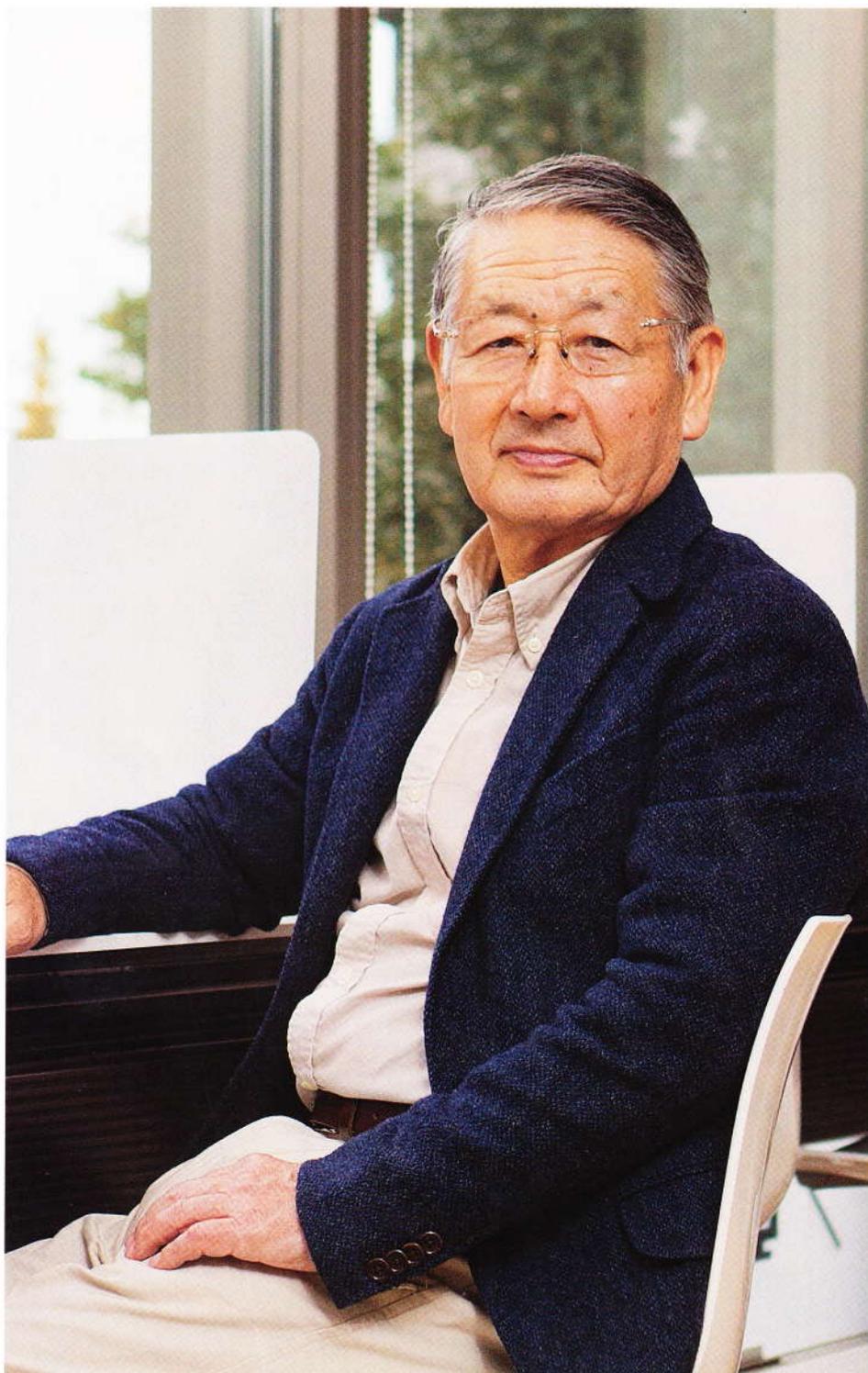
Free

日立グループOB・OGのための、生活情報コミュニティ

「特集」

われらの終活

「人生のまとめ」を準備する



[HITACHI-JIN Interview #6]

シニアの地域社会参加を促して十余年
ソーシャルビジネスの前線に立つ日立人

堀池 喜二郎さん

[My Life with Hitachi 日立サポーター伝 第一回]

日立がすべてを教えてくれた
日立と歩んだわが人生 百々 立夫さん

好齢ビジネスパートナーズ世話人

堀池喜二郎

さん



Profile

1941年、東京・深川生まれ。慶応大学工学部で管理工学を学んだ後、日立に入社。卒業後は「NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹」創設を皮切りにソーシャルプロデューサーとして幅広く活躍。共著書に「シニアよ、ITをもって地域にもどろう」「スマートエイジング入門」（ともにエヌティティ出版）がある。趣味は「目が潰れるほど読みまくりたい」という読書。

※ソーシャルとは、ブログやSNSなど個人を結び人間関係を深めるICT（Information and Communication Technology）ツールの発展により、経営が社会課題の解決に大きく変換すること。日立は、産業社会のソーシャル化に先頭を切って構造変革に取り組んでいます。

シニアの地域社会参加を促して十余年 ソーシャルビジネスの frontline に立つ日立人

今回の主役は、シニアが地域活動に参加することを10年以上前から提唱してきた日立人。

「いまは85歳以上じゃないと高齢者とはいえないよ」と語る名うてのソーシャルプロデューサーに、会社と社会のお話を伺いました。

「コ」 ミュニティビジネス（C B）」という言葉はご存知

でしょうか。概していえば、地域の課題を住民が解決し、利益を地域に還元するビジネス活動のこと。行政コスト削減、雇用創出、生き甲斐作りにも役立つ活動として、近年広がりを見せている形態です。

堀池さんはこの分野で早くから活躍するエキスパート。シニアの地域参加を強調しながら、2000年の「シニアSOHO普及サロン・三鷹」創設を皮切りに、「どこ竹@竹とんぼ教室」、「多摩CBネットワーク」、「地域と私・始めの一步塾」、「好齢ビ

ジネスパートナーズ」と、次々に組織を立ち上げてきました。堀池さんの日立卒業は2000年。退社と同時にコミュニティビジネスを計画的に始めたように見えますが、実情は少々違いました。

「そもそもは、大学の地域同窓会のサイトを作ったのが最初。「ITの仕事してるんだから作ってよ」と頼まれましてね。その後、シニア世代の会員から要望が出て、パソコン教室を開いたんです。ちよっと面倒だな、と内心思いましたよ。でも、アンケートを取ったら、多くの人が熱意に溢れた長文を書いてきたんです。

教室でシニアが喜ぶ様子を見て意識を高めていた頃に転機が。当時、教室の会場にしていた施設の管理者である三鷹市には、「SOHO産業シテイ構想」があり、地元のシニアを巻き込みたいという念願がありました。堀池さんたちの活動を知って興味を持った市職員が、経産省の助成事業に応募しては、と提案してきたのです。

ネットが使えたらこうしたい、パソコンを使ってこんなことがしたい……。その熱意に負けて、定期的に教室を開催するようになりました」

教室でシニアが喜ぶ様子を見て意識を高めていた頃に転機が。当時、教室の会場にしていた施設の管理者である三鷹市には、「SOHO産業シテイ構想」があり、地元のシニアを巻き込みたいという念願がありました。堀池さんたちの活動を知って興味を持った市職員が、経産省の助成事業に応募しては、と提案してきたのです。

教室でシニアが喜ぶ様子を見て意識を高めていた頃に転機が。当時、教室の会場にしていた施設の管理者である三鷹市には、「SOHO産業シテイ構想」があり、地元のシニアを巻き込みたいという念願がありました。堀池さんたちの活動を知って興味を持った市職員が、経産省の助成事業に応募しては、と提案してきたのです。

私の日立ストーリー

- 1963年 入社。多賀工場で厨房機器等の生産管理や商品企画に従事。
- 1980年 本社OA推進本部に転属。主にPCのSEEを担当。
- 1988年 財CECに出向し、研究室長として教育用PC業界を管轄。
- 1990年 OA販売研修センターの長に。
- 1995年 家電事業部サービス本部に転属。eラーニングシステム構築を担当。
- 1997年 コンシューマシステムテクノロジー社に出向し取締役に。
- 2000年 日立を卒業。

会社の「仕事」を卒業したら 地域社会で「志事」を始めよう。



シニアSOHO三鷹の会員交流会で。バリバリのICT講師先輩に囲まれて。80代のお二人とはフェイスブックで日々意見交換。



左/「三鷹現役プロフェッショナルカフェ」というイベントを開催している。その懇親会にて。若い現役会社員たちと地域活動について議論する場。

上/昨年から東日本大震災の被災地を元気にする仕事にも関わる。12月は三鷹のシニアと連携して大船渡市の仮設住宅のシニアに「子どもと竹工作する講師育成」の講座をした。



「自治体は個人の興味など把握できませんが、教室では参加者がネットを閲覧した履歴がわかります。70歳のAさんが演劇の大ファンで、80歳のBさんが木工の専門家で……とわかる。『コレだ!』と思いましたね」

日立時代に財団法人への出向経験がある堀池さんにとって、役所向け文書の作成はお手のもの。三鷹のシニアがITで自立するビジネスモデルを申請したところ、10倍の倍率を勝ち抜き、経産省の助成事業500万円受託に成功。堀池さんは退社とシニアSOHOサロンの本格運営を決めたのです。それは、定年まであと1年という頃でした。

「当時、仕事と家庭の両面で困難を抱えていたという事情もありました。でも、申請で経産省の女性職員に相談した際、『面白いことができるのは、いまや会社組織ではなく、あなたの会のような組織ですよ』といわれたのも大きかった。世の中はソーシャル化しつつあるのだな、と実感したんです」

会社から社会へ。会社人から地域人へ。堀池さんが先んじて感じ取ったこの流れが確実に広がっているように思える現在。これから社会に戻る会社人にはどんな心得が必要でしょうか。

「会社の仕事が終わったら、今度は『志事』をすればいいんです。人に仕える事ではなく、己が志す事をね。思うに、多様な人材が集う会社で常に理不尽ともいえる難局に鍛えられてきたのが日立人。何かと理不尽なことが多い地域社会では、そういう生粋の日立人ほど、いきいきと活躍できるはずですよ」

会社という狭い枠組みに縛られる人には時に厳しい批評も辞さない堀池さん。しかしその瞳の奥に、深い日立愛の姿がちらつきました。



「好齢ビジネスパートナーズ」の活動が読めるブログ

堀池さんの運営する「好齢ビジネスパートナーズ」での活動が読めるブログ。写真入りで地域での様々な催しものや講演の様子が綴られています。応援したい方、一緒に活動したい方は一読をおすすめします!



<http://infoippo.tamaliver.jp>